



Iinno Advancement Center Newsletter

## 日野振興センターだより

令和4年3月発行 no.36

### menu

#### 日野郡のたたら

たたら製鉄の技術を伝える「鉄山秘書」の著者 下原重伸恭敬事業が行われました

- 日南町に最新鋭の林業用コンテナ苗木育成施設が完成
- 日野郡における令和3年産米の作柄～良食味への取組～
- 温故知新の白ネギ栽培～チェーンホット定種の再評価～
- 農作業安全について ～農作業事故発生0(ゼロ)を目指して～
- 河川・道路整備ボランティア募集中!!
- 日野郡で輝く人「Amanel(あまね) 古川 美穂さん
- 新型コロナウイルス感染症
- 春を告げる黄色い花たち
- 日野川フオートコンテスト2021 クラウンアリ決定!!
- 鳥獣被害対策 トイレカメラの話②
- 「県民参加の森林体験・森林保全活動」の企画を募集しています



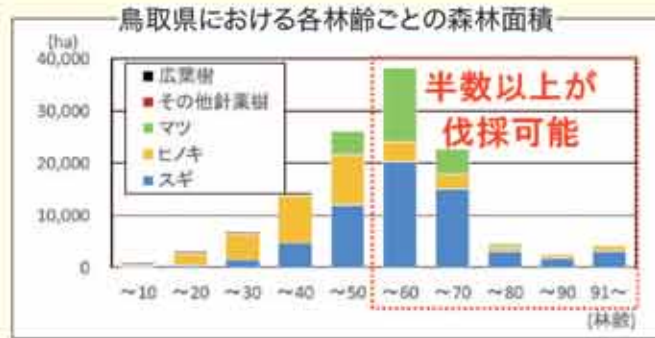


## 日南町に最新鋭の林業用コンテナ苗木育成施設が完成



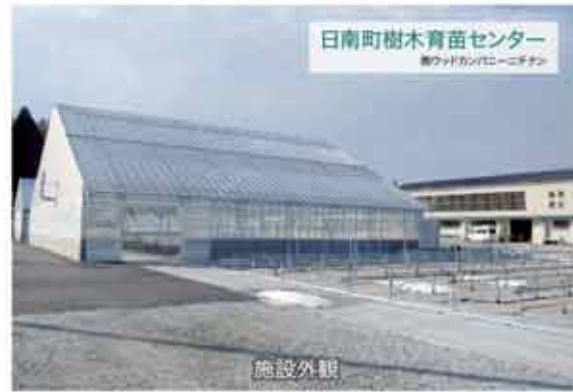
令和3年12月に日南町阿毘緑で、林業用のコンテナ苗を生産する「日南町樹木育苗センター(株式会社ウッドカンパニーニチナン)」が完成しました!

この施設は、全国でも珍しい最新の設備を完備しており、従来よりも、安定的に効率よくカラマツ、スギ等の苗木を生産し植林現場へ届けられるようになることから、皆伐再造林等、SDGsの取り組みへの貢献が期待されます!



戦後植林された森林が全国的に伐採時期を迎えており、鳥取県でも伐採・再植林が進められていますが、植栽に必要な苗木は不足しています。

### 「日南町樹木育苗センター」はどんな施設?



隣接する旧阿毘緑小学校の体育館や旧阿毘緑幼稚園を改装し、倉庫や事務所として再活用されています。

本施設では、最新の設備により令和5年にはカラマツ、スギ、ヒノキ等の苗木を数人の従業員で年間12万本生産される予定です。今後も段階的に設備を拡充され、年間生産量約20万本を目標にされています。



#### 施設の“ここがすごい”

- 1 「種子選別機」で優良な種子のみを自動選別し播種することで、安定生産を実現。(発芽率30%→80%)
- 2 「発芽室」で温度や明るさを管理することで、一度に最大約14万個体の発芽が可能。
- 3 「ムービングベンチ」(苗木を乗せた育苗用の専用台が可動)で、苗木1,200本を1人でも簡単に移動可能。
- 4 温度管理や散水などをコンピューター制御で管理し、スマートフォンで簡単に確認可能。
- 5 徹底した温度管理により、従来2~3年かけて生産されていた苗木を1年程度で出荷可能。

コンテナ苗とは、コンテナ容器の中(写真①)で育苗された苗で、容器から取り出しても、土と根の形が維持されます(写真②)。林業では従来、根から土を振るい落とした裸苗(写真③)を用いますが、コンテナ苗は、コンパクトで持ち運びが良い、乾燥に強く根が傷みにくいので植栽時期を選ばない等の特長があります。



## 日野郡のたたら

### たたら製鉄の技術を伝える「鉄山秘書」の著者 下原重仲恭敬事業が行われました



奥日野のたたら製鉄は、幕末から明治にかけて日本の近代化に大きく貢献しました。日野郡には、多くの製鉄遺跡があることから、調査研究や各種観光面での取り組みなど、たたら製鉄の歴史的価値を検証する民官の取り組みが続けられています。

今回のテーマとなった「鉄山秘書」<sup>※1</sup>は、たたら研究の必読書とされています。江府町出身の鉄山師、下原重仲が著し、1784(天明4)年に完成しました。昨年11月5日が下原重仲の200年目の命日にあたることから、江府町文化協会及び伯耆国たたら顕彰会の主催により11月21日に下原重仲恭敬<sup>※2</sup>ツアー&フォーラムが開催されました。今回は、その模様を御紹介します。

#### 恭敬ツアー

午前、江府町内をフィールドに下原家がたたら製鉄を行ったとされる地を巡る恭敬ツアーが行われました。

下原家の初代は、津山藩主の森忠政の孫と言われ、江府町でたたら製鉄を始め、後に町内の分家で生まれた重仲も鉄山経営に励みました。「鉄山秘書」は、その経験を基に著されたと伝えられています。

ツアーでは、江府町内に残る重仲ゆかりの地を踏査しました。参加者は、それぞれ当時の状況に思いを巡らせているようでした。



11/21現地踏査(恭敬ツアー)

#### 恭敬フォーラム



11/21パネルディスカッション(恭敬フォーラム)

午後は、会場を江府町役場に移し、島根県古代文化センター長の角田徳幸氏の基調講演、地元江府町の歴史研究家の橋谷俊二氏による調査報告、江府読み聞かせの会有志や江府町立図書館の中島昭生司書による朗読、パネルディスカッションで構成された恭敬フォーラムが開催されました。

フォーラムで紹介・解説が行われた「鉄山秘書」は、たたら製鉄に関連する項目毎に全8巻で構成されますが、その原本の所在は明らかになっていません。江戸時代に大坂の鉄商人により筆写された写本が、東京大学、筑波大学、九州大学等に残されています。「鉄山秘書」が記された理由は明らかではありません。一説では次世代にたたら製鉄の経営ノウハウや技術を残すことが動機だったとも言われています。

また、近年、「鉄山秘書」完成の16年前に書かれたとされる「鉄山要口訳」(日野町所蔵)も見つかっており、今回のフォーラムでは「鉄山要口訳」は、後に孫の為吉が筆写したことや、その内容が「鉄山秘書」とは異なり、経営が中心となっていることが紹介されるなど、いくつかの新しい話も明らかにされ、歴史の一端を知ることができる貴重な機会となりました。

※1 鉄山秘書:現代の研究者が掘り所とするたたら製鉄の技術を今日に伝える貴重な文献資料。 ※2 恭敬:つつしみうやまうこと

たたら歴史を地域の財産として後世に伝えることの大切さについても改めて感じる事ができた機会となりました。

鉄山秘書の表紙及び背景の画像は、「東京大学工学・情報理工学図書館」に所蔵されているものを提供していただきました。



## 農作業安全について ～農作業事故発生0(ゼロ)を目指して～

鳥取県では毎年農作業事故の報告があり、特に今年度は死亡・重傷事故の発生が多く、7名の方の尊い命が失われています(R3.11月末時点)。

農作業事故の発生は単なる機械の操作ミスに限らず、複数の要因が重なり発生することがほとんどです。その要因には「危険な場所での作業、機械施設の整備不良、不適切な作業方法」などが挙げられ、しっかりと安全対策や準備をおこなうことで、事故発生の未然防止と重傷化リスクの低減に繋がります。

まずは、作業現場の見回りと機械施設の点検を実施し、安全な農作業実施について再確認することから始めましょう。



### 【農作業事故等の発生傾向】

鳥取県で発生した農作業事故を機械別に見ると、トラクターなどの乗用型機械が約半数を占めており、発生要因は転倒などによるものです。

事故は年齢に関わらず発生していますが、特に高齢者の方は死亡事故率が高い傾向となっています。

また、農作業中の熱中症についても、毎年、多くの発生が報告されていますので、これからの農繁期に向けて注意が必要です。

### 【安全な作業服装】

例)防護具(機械作業時のヘルメット、草刈時のゴーグル)の着用など

### 【作業前の準備】

例)作業場所や機械の点検、緊急の連絡先や方法の確認・熱中症対策(水分補給、適宜休憩)など



鳥取県振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090  
農林業振興課農業振興室 電話:0859-72-2003 FAX:0859-72-2011

## 河川・道路愛護ボランティア募集中!!

～「地元の道路、河川、公園」の除草等をしてくださる皆さまの活動を支援します～



### <ボランティア活動内容>

- 道路の清掃、除草又は植栽管理もしくは歩道除雪
- 河川の清掃、除草又は植栽管理
- 公園の整地、清掃、除草又は植栽管理



区分	参画型ボランティア促進事業	協働型ボランティア促進事業	スーパーボランティア支援事業
支援内容	自主的な環境美化等(清掃・除草・除雪等)を行う団体に対し、活動の実施に必要な援助を行います。	県とのパートナーシップに基づいて協定を結び、一定区間の維持管理(除草・植栽管理・除雪等)を行う団体の活動を支援します。	公園、河川敷等を活用した地域づくりや賑わい創出の活動と併せて、適切な維持管理を継続して行う団体の活動を支援します。
活動規模	任意の規模	道路 0.5km以上 河川 0.2ha以上 植栽柵 50m以上	活用する公共空間の範囲
交付金等	参加者:100円/人・時間 草刈機等:100円/台・時間 (上限10万円/年)	河川・道路・公園等:40円/m <sup>2</sup> 植栽柵:500円/m <sup>2</sup> 歩道除雪:20円/m <sup>2</sup> (上限40万円/年、ただし、歩道除雪は20万円/年)	河川・道路・公園等:40円/m <sup>2</sup> 植栽柵:500円/m <sup>2</sup> (上限60万円/年) 施設設置の原材料費等の額 (簡易施設設置交付金:1団体につき50万円まで)

※事前にボランティア団体の登録及び協定の締結(参画型ボランティアを除く)が必要です。詳しくは、下記までお問い合わせください。

鳥取県土整備局 維持管理課 電話:0859-72-2046 FAX:0859-72-2092

## 日野郡における令和3年産米の作柄 ～良食味への取組～

令和3年の鳥取県西部の水稻作況は、8月前半の多雨や8月中旬から9月の日照不足の影響を受け、やや不良でした。しかし、標高が高い日野郡管内では、昼夜の温度差が大きく玄米の充実が良好であることから、品質が高く、収量が多い事例も見られました。

「第19回日野川源流米コンテスト(令和3年10月、主催:日野郡産米改良協会、出品数155点)」では、食味値<sup>※1</sup>の平均が87.9点で前年を約7ポイント上回り、整粒歩合<sup>※2</sup>は90.3%で前年を13ポイント上回るなど非常に高水準でした。本コンテストで最優秀賞(県知事賞)を受賞したのは、日南町の(株)米風土鳥取(まいふうどとっとり)です。

同社は、静岡県で開催された「第23回米・食味分析鑑定コンクール国際大会(令和3年11月、主催:米・食味鑑定士協会、出品数:4,883点)」でも「国際総合部門」金賞を受賞し、鳥取県初の快挙となりました。

(株)米風土鳥取の藤原取締役は、「今後もコンテスト出品に取り組み、全国でも通用するようなおいしいお米を生産したい」と意気込んでいます。

更に、日野郡には、鳥取県で育成された「星空舞」の良食味生産を目指して、標高の高い地域での栽培に挑戦するなど、意欲的な取り組みを行う農業者も多く、今後も一層の日野郡産米のレベルアップが期待されます。

※1食味値:専用の測定器で計測し、お米のおいしさを示す値。標準的なお米は、65～75点。

※2整粒歩合:穀粒判別器で測定し、被害(着色や未熟)等のない整粒の割合。一般的には、70%以上で1等米とされている。



令和4年1月18日 知事への「第23回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」金賞受賞報告をする(株)米風土鳥取

## 温故知新の白ネギ栽培 ～チェーンポット定植の再評価～

日野郡の特産野菜の一つである白ネギは、一人当たりの栽培面積が10a程度と小さいため、古くから手作業で植えられるのが一般的でした。しかし近年は、高齢化が進んだこと、新規栽培者や規模拡大を目指す若手農業者が少しずつ増え始めたこと、また手作業では定植に時間がかかり、作業姿勢も辛いことなどから対策を求める声があがるようになりました。

そこで、普及所では約30年前からあった「チェーンポット定植技術」に着目しました。チェーンポットは一つ一つの苗ポットが紙で連結されたもので、専用の機械(ひっぱりくん)に苗をセットし人力で引っ張るだけで省力的に定植することができます。過去には郡内でも普及しようとした経緯もあったようですが、当時は機械の使用方法等が上手く農家に伝わっていなかったため、長らく忘れ去られた技術となっていました。

このため、平成30年からJAと協力してチェーンポット定植実演会や講習会を開催し、正しい情報発信に努め、技術の再実証と地域適応性を評価してきました。定植実演会では普及員がコツを丁寧に説明しながら、参加者が実際に植付を体験しました。参加者からは「手植え作業と比べると楽だ」、「植えるのが早いし女性でも簡単に作業ができる」、「これを知るともう後に戻れない」といった声があり、高いニーズがあることが改めて証明されました。

普及啓発を始めて今年度で4年目となりますが、同時にJAの苗供給体制の整備もすすみ、現在では部会員40名中15名が導入しています。今後も本技術の普及が進み、若手農家の規模拡大や高齢農家の作業負担軽減につながることを期待されます。



チェーンポット定植実演会の様子



手植えの様子(約20時間/10a)



チェーンポット定植の様子(2～3時間/10a)

苗が数珠状に連結している

鳥取県振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090





# 春を告げる黄色い花たち



自然に恵まれた日野郡。長い雪の季節が終わり、「春を待ちわびていたかい？さあ春が来たよ！」という春の鼓動が伝わってきそうな黄色の花々が一気に開きはじめます。

早春の青空に良く映えそうな、春を告げる黄色の花をご紹介します。



ミチノクフクジュソウ

鳥取県：絶滅危惧1類  
環境省：準絶滅危惧

日当たりの良い広葉樹林下や原野に生育する多年生草本。3月に花弁12～15枚の花を咲かせます。日が当たっていると開き、陰ると閉じてしまいます。福寿草は縁起物として古くから栽培されてきたようです。元日草(かんじつそう)や朔日草(ついたちそう)という別名があるようです。

鳥取県：その他重要種  
環境省：準絶滅危惧

早春に「まず咲く」「真っ先」が変化したものが和名の由来と言われています。花弁は黄色いリボン状で萼片(かくへん)は黄色いですが、よく似たマルバマンサクの萼片(かくへん)は赤いので、区別しやすいです。たくさんの花を付ければ、豊年満作になると言われています。



アテツマンサク

日野郡には希少な植物がたくさんあります。雪の中でも晴れ間を見て出かけてみませんか？春を伝える花々にきっと出会えることでしょう。枝を折ったり、掘ったりしないで見守っていただきますようお願いいたします。

合言葉は「とっていいのは写真だけ」

日野郡振興局 地域振興課 電話：0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

## 日野川フォトコンテスト2021 グランプリ決定!!

～私が好きな日野川～

主催：日野川の源流と流域を守る会

日野川の源流と流域を守る会では、日野川の自然、山、森、里山の風景、流域の人々の生活文化などを題材に、フォトコンテスト2021を開催いたしました。一般部門、スマホ部門共に多くの応募をいただいた中から、厳正な審査の結果、入賞作品が決定しました。その中から両部門の最優秀作品であるグランプリを御紹介します。

○募集期間：2021年5月25日(火)～11月7日(日)

○応募件数：一般部門15点、スマホ部門16点

※その他の入賞作品は、当会のHP(<https://www.pref.tottori.lg.jp/299220.htm>)をご覧ください。



一般部門  
グランプリ

「ふたつの川」  
村川 雄秀さん



スマホ部門  
グランプリ

「よいいドン」  
沖山 希子さん

日野川の源流と流域を守る会は、日野川の源流と流域の自然を守り、日野川を日本一美しい川にすることを目的として平成14年に設立されました。

会員募集を随時しています。お申し込み方法等につきましては、下記までお問い合わせ下さい。

日野川の源流と流域を守る会事務局(日野郡振興局 地域振興課内) 電話：0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

日野郡で  
輝く人

「Amane」(あまね)  
古川 美穂さん(日野郡江府町江尾)



記念日などのおしゃれなプレゼントとして人気の高いアイシングクッキー。クッキーの上に、粉砂糖と卵白を練って色付けしたアイシングで、絵やメッセージを書いて贈ることができることから、幅広い年代の方に喜ばれています。江府町江尾の古川美穂さんは、令和元年10月1日、このアイシングクッキーの工房「Amane」を立ち上げました。

古川さんの実家は、350年近くの歴史を持つ佛日山東祥寺(江府町江尾)で、自然とお経が耳に入る環境で育ちました。大学卒業後、大阪で管理栄養士として勤務しながらも、いつかは故郷に戻り地域のために働きたいと考えていた古川さんは、6年前にUターン。介護老人保健施設で働く傍ら、自己達成感を感じながら楽しく生活したいと、アイシングクッキーを独学で作り始めました。Instagramで注文を受け付けたところ、当初は週1～2件だった注文が、県外のお客様を中心に徐々に評判が高まり、3年ほど前に江府町江尾の民家を借りて「Amane」として本格的に工房を立ち上げるほどに。また、アイシングクッキー教室を主宰し、今では県内外からひと月に40件ほどの注文が来るまでに成長しました。「Amane」とは、自分の積んだ功徳を全ての人に行き渡らせるための、仏教の回向文(えこうもん)の中の言葉、「願わくば此の功徳を以て普く(あまねく)一切に及ぼし」の中から取ったそうです。分け隔てなく、全ての方に、という思いが伝わります。

古川さん「アイシングクッキーでみんなに喜んでもらいたいと思います。将来は、誰もが立ち寄ることができるカフェを、この故郷に作る事が目標です。」

日野郡振興局 地域振興課 電話：0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

「分岐点がたくさんあるのが自由だと思っている人が多いが、目の前の一本道を太くして行って、その中を自由に歩くのが本当の自由だ」と言っていた親の言葉の意味が、最近わかるようになりました。



お祝いや発表会などのメッセージがよく伝わるデザイン。

## 新型コロナウイルス感染症



オミクロン株対策やワクチン接種など、正しい知識に基づいて行動しましょう!

教えてくださるのは 鳥取大学医学部副学部長 ウイルス学分野 景山誠二教授 です。

◎ 年明けから県内でも感染拡大したオミクロン株の特徴を教えてください。

① アルファ株やデルタ株と比べ、ウイルス量が短期間で増え、感染を広げやすいという特徴があります。

オミクロン株は、感染してから2～3日で鼻水や咳など風邪に似た症状が出るのが多く、感染してから短期間で鼻や喉などを中心にウイルス量が増えると考えられており、感染を広げやすいという特性を持ちます。感染者が増えることで医療が逼迫し、コロナ以外の病気やケガの方が適切な医療を受けられなくなるのが大きな問題です。

◎ オミクロン株に対し、これまでのワクチンは有効ですか。

② ワクチン2回接種済の方でも、ブレイクスルー感染が多くみられましたが、重症化が防げます。

オミクロン株の登場により、ワクチンで得られた抗体をすり抜けるブレイクスルー感染が全国的に多くみられ、2回接種では十分な抗体価が得られないことがわかりました。ただ、2回のワクチンで、重症化を抑える効果が残っているため、さらに、ブースター(3回目)接種することで十分な抗体価が得られ、オミクロン株感染予防への高い効果がみられます。みなさんには、3回のワクチン接種について、積極的に検討していただきたいと思っております。

◎ オミクロン株への対策として、私たちがすべきことは何でしょうか。

③ 風邪症状が出たら早めに医療機関に相談しましょう。

風邪のような症状は、オミクロン株の特徴です。かかりつけ医に電話で相談し、早期受診、早期検査を心掛けましょう。また、基本的な感染対策として不織布マスクは極めて有効ですので、正しいマスク着用などの感染予防習慣は続けてください。

◎ アフターコロナ、ウィズコロナと呼ばれる、新しい生活はどのようなものになると予想されますか。

④ 手軽に検査ができ、治療薬が広く普及すれば、新型コロナウイルスとの共存も可能だと思います。

抗原定性検査キットがいつでも薬局等で購入でき、自宅でも手軽に検査できるようになれば、早期受診に結び付けることができます。これからは、新型コロナウイルスに対する免疫機能を維持しながら、共存の道を探っていくことになるかと予想しています。

新型コロナウイルス感染症に関する情報には様々なものがありますが、不確かな情報に惑わされず、県や町などの行政機関が発する正しい情報に基づき行動しましょう。

日野郡振興局 地域振興課 電話：0859-72-2086 FAX:0859-72-2072







「うちの畑を何かが荒らす!でも犯人が分からない…」という相談なら、犯人をはっきりさせるためにトレイルカメラを設置すれば良いことなのですが、私たちのところに来る相談の中で多いのは、「犯人は分かっている、対策もしている、でも荒らされる」というケースです。皆さん、刑事になったつもりで考えてみてください。被害者の言い分は、犯人は分かっている、対策もしているのに荒らされるのだから、逮捕(捕獲)してほしいということです。なるほど。でも皆さんは刑事です。被害現場を確認して、証拠を集め、手口を見極めないといけません。更にはこの被害者の発言も疑ってかかりましょう。「あなたは犯人を見たんですか?」

こう質問すると大抵の方が「見たわけではないけど…きっとそうに違いない」と言われます。そうです、意外と思いきみで犯人に仕立て上げられている場合があります。

例えば、左上の写真。トウモロコシがかじられています。タヌキやアナグマが大抵疑われますが、トウモロコシの実が茎についたままの場合は、ほとんどがカラスによるものです。タヌキやアナグマであれば、まず茎ごと押し倒します。私たちは犯人の手口を知っているので、犯人はタヌキではないと言いますが、タヌキを犯人と信じて疑わない被害者には通じません。こんな時に、百聞は一見に如かず!トレイルカメラの登場です!犯人の姿と手口をしっかりと見てもらいましょう。何せ、この犯人間違いは大変です。テグスを張って空から来るものの対策をしないとイケないのに、ずっと地面から来るものを想定してネットを張ったりしても無駄になってしまいますから。

2枚目の写真はテグスと電気柵、対空対地の防備が完璧なトウモロコシ畑です。しかし被害が発生しました。

結論から言うと犯人はカラスでした。でも手口が分かりません。犯人の姿と手口を撮影するのがトレイルカメラ!

では3枚目の写真を見て下さい。電線の上に鳥は乗れるのです!そう来たか!!という具合にトレイルカメラの有効性がお判りいただけたでしょうか?

さて、色々な種類があるのは前回ご紹介しましたが、選ぶ時には以下のポイントをチェックして選ぶと良いでしょう。

①値段、②メニュー画面が日本語、③画素数、④センサー有効範囲、⑤トリガースピード  
他にも夜間カラー撮影機能やバッテリー仕様やモニターの有無などもあるのですが、基本的には①から⑤を比較して検討されたら良いかと思います。色々カタログを見て選んで下さいね。

同日野郡鳥獣被害対策協議会 電話:0859-72-1399

## 「県民参加の森林体験・森林保全活動」の企画を募集しています

県民みんなでととりの森を守り育てるため、森林環境保全税を活用して、森林体験や森林保全活動などを行う団体の取組を支援します。

**【対象】** 集落、NPO法人、ボランティア団体、小・中学校、森林組合など  
**【活動内容】** ①県内で実施され、多くの県民の参加を募る森林体験活動など  
②3年間以上継続するモデル的な森林保全活動

※活動の例・森林整備の体験学習、森林教室、源流森林の探訪、  
貴重な森林を継続して保全・整備する活動

**【補助額】** 対象経費の全額を補助(上限額80万円)

**【留意事項】** 新型コロナウイルス感染防止対策を行う活動に限ります

### 応募期限

〈第2次〉

5/31(火)

〈第3次〉

8/31(水)

※第1次募集は  
終了しました



トッキー

同日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2021 FAX:0859-72-2125



### 表紙写真

タイトル:川平の岩藤

撮影者:日野町 松本 利秋

撮影者コメント:川面に一房下垂の「藤」、舞妓さんのかんざしを連想し、優しく美しい。歴史と文化を育んで流れる一級河川の日野川右岸、大きな奇岩につるが巻き付き帽子のように4月~5月に咲く「川平の岩藤」。周りの山々の新緑の中でひととき目を引きまします。ここは、江府町佐川(国道181号線・道の駅「奥大山」から米子方面に約1km)の道沿い。交通安全を見守ってくれているようです。車を止めて観賞を、安全運転をしましょう。